

〔延喜式二十三年〕年料別貢雜物

伊豆國零羊角四具、甘葛汁二斗

〔江家次第第五〕季御讀經事

上卿一人著南殿例天喜四年、三ヶ月毎夕座侍臣施煎茶、衆僧相加甘葛煎、亦厚朴生薑等隨要施之

〔今昔物語二十六〕利仁將軍若時從京敦賀將行五位語第十七

今昔利仁將軍ト云人有ケリ○中 利仁此ヲ聞テ大夫殿未ダ暑預粥ニ飽セ不給カト云ヘバ五位

未ダ不飽侍ト答フ、利仁イデ飲飽セ奉ラバヤト云ヘバ、五位何ニ喜ウ侍ント云テ止ヌ○中 若ヤ

カニ穢氣无キ下衆女共ノ、白ク新キ桶ニ水ヲ入テ持來テ、此釜共ニ入ル、何ゾノ湯涌スゾト見レ

バ、此水ト見ハ味煎也ケリ、亦若キ男共十餘人許出來テ、袪ヌモトヨリ手ヲ出シテ、薄キ刀ノ長ヤカナル

ヲ以テ、此ノ暑預ヲ削ツ、撫切ニ切ル、早ウ暑預粥ヲ煮ル也ケリ、

〔古今著聞集十八〕九條の前内大臣家に、壬生の二位○藤原家隆 參て和歌のさた有けるに、二月の事な

りけるに、雪にあまづらをかけて、二品にす、められけり、

〔枕草子三〕あてなるもの

けづりひのあまづらにいりて、あたらしきかなまりにいりたる、

〔延喜式三十七〕中宮臈月御藥

四味理仲丸○中 所須人參八兩三分、甘草八兩三分○中 甘葛煎小一斗一升一合、

〔薰集類抄上〕梅花擬梅花之香也、春尤可用之

二條關白教通○中略

治曆四年四月六日、被合梅花一劑、大香十五兩二分三朱、甘葛合定十六兩一分三朱、

〔薰集類抄下〕煎甘葛